

富士山の火山活動解説資料(平成26年12月)

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

2011年3月15日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

平成19年12月1日に噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況(図1)

萩原遠望カメラ(富士山山頂の東南東約18km)及び中部地方整備局が朝霧(富士山山頂の西約14km)、富士砂防事務所(富士山山頂の南西約17km)に設置しているカメラによる観測では、今期間、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況(図2、図3)

2011年3月15日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したマグニチュード6.4の地震以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。

深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況で経過しています。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

・地殻変動の状況(図4、図5)

GNSS^{注)}連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

注) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 富士山 山頂部の状況
(12月28日 萩原遠望カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成27年1月分)は平成27年2月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平26情使、第578号)。

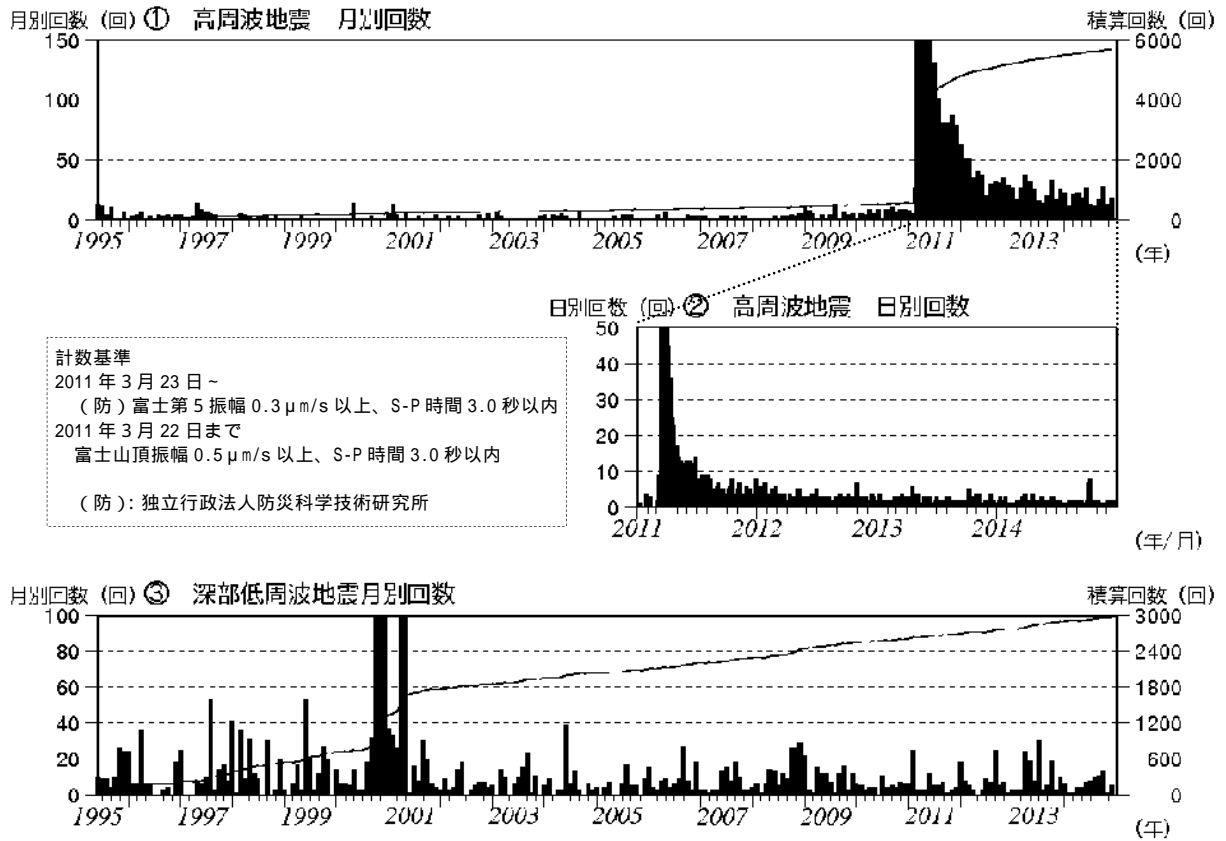


図2 富士山 月別及び日別地震回数(1995年6月1日～2014年12月31日)

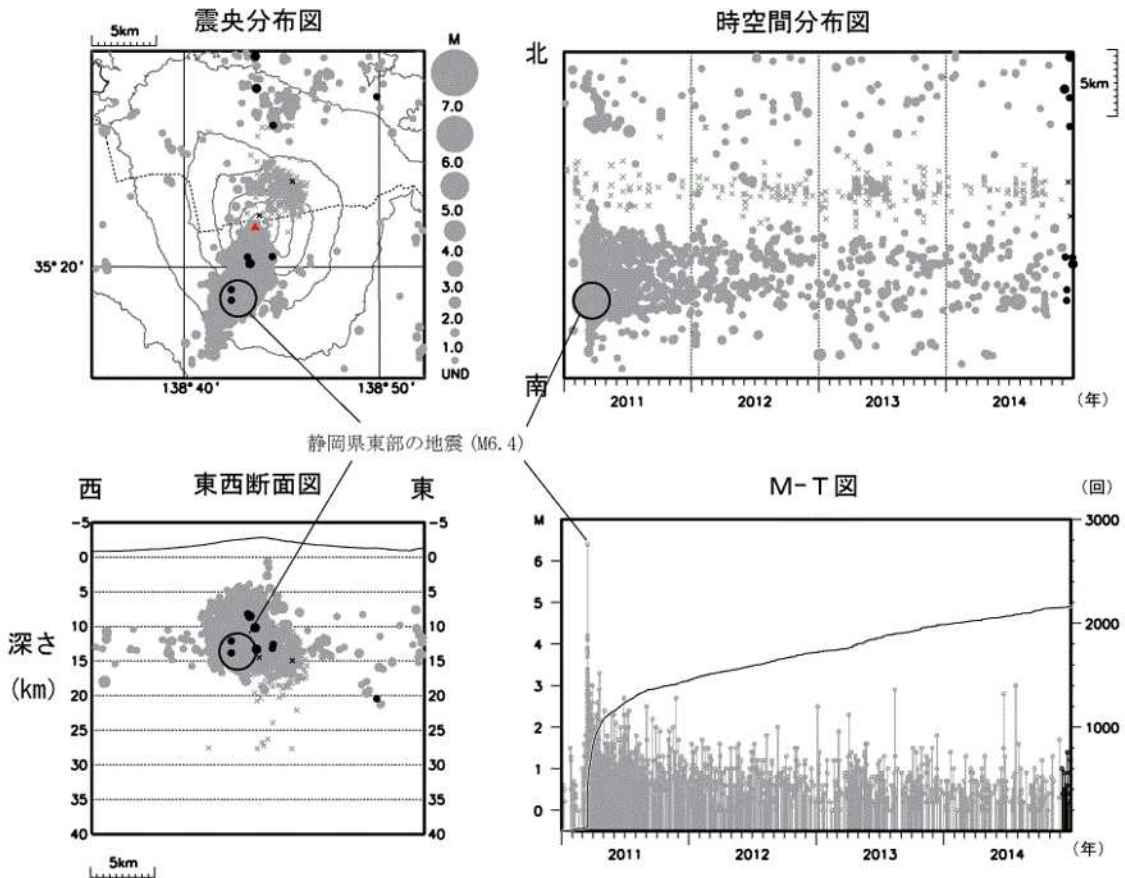


図3 富士山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011年1月1日～2014年12月31日)

: 2011年1月1日～2014年11月30日 : 2014年12月1日～12月31日

×は深部低周波地震を表します。M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

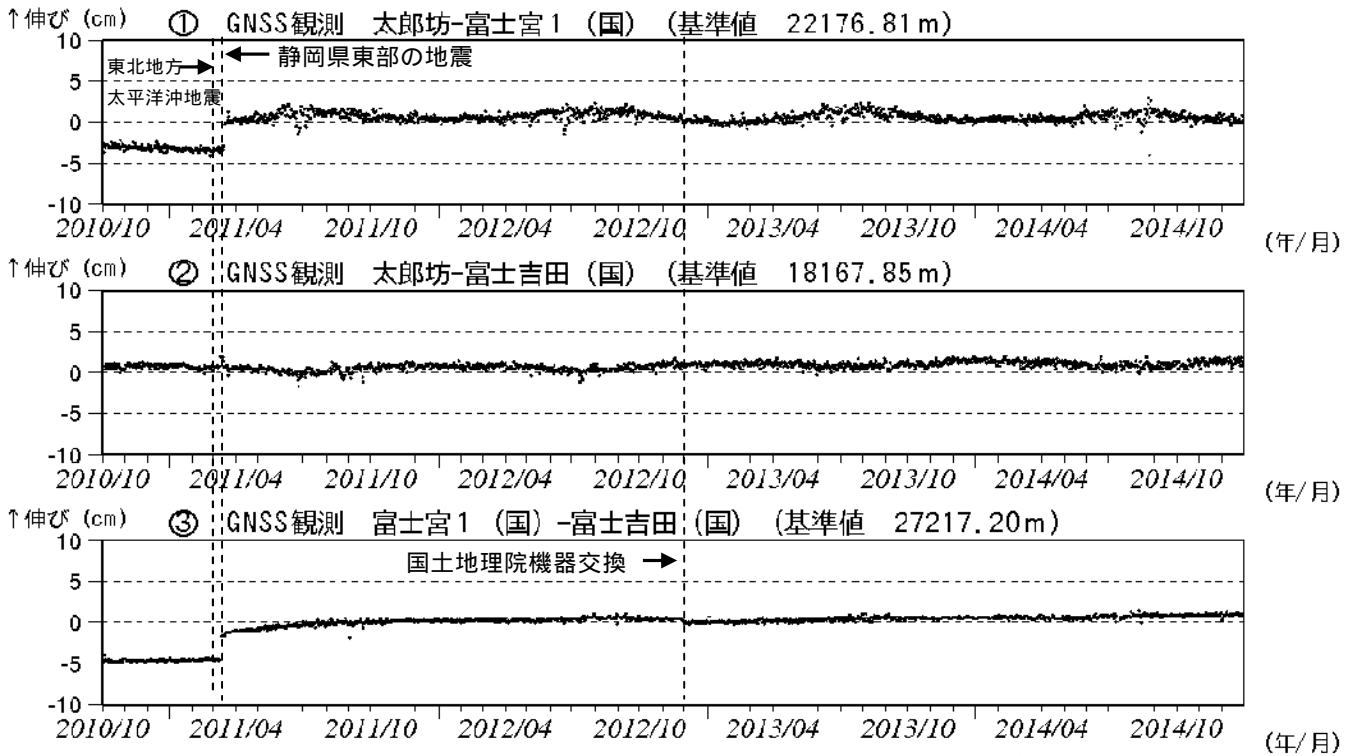


図4 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010年10月1日~2014年12月31日)
(国): 国土地理院

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。

~ は図5のGNSS基線 ~ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

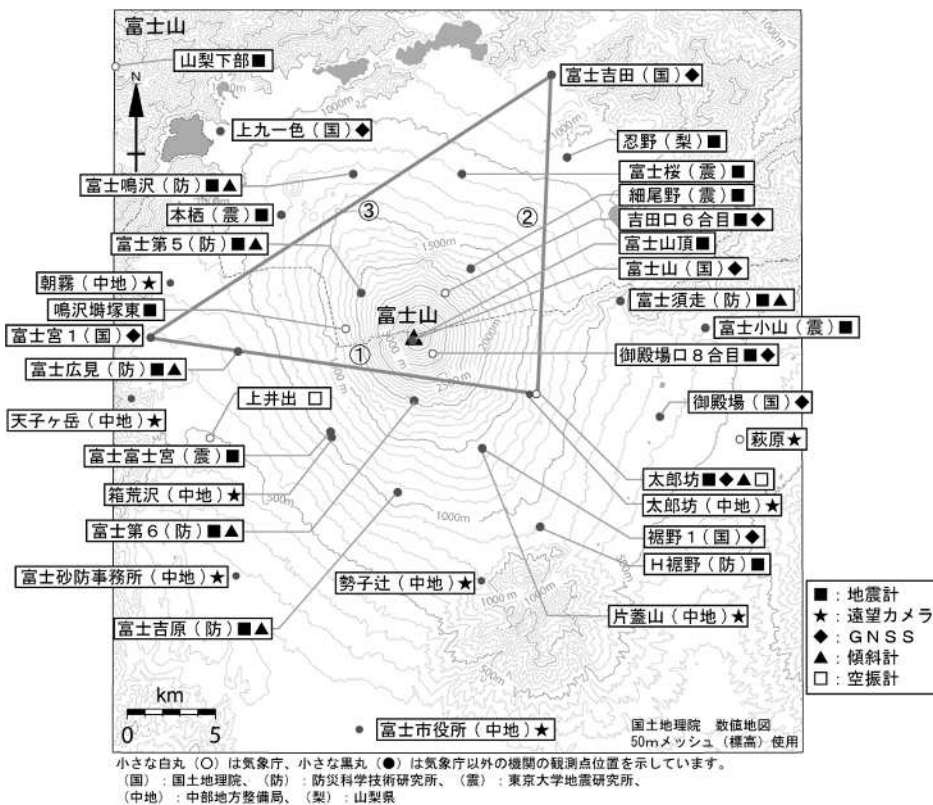


図5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線 ~ は図4の ~ に対応しています。